



育成だより

第18号

平成15年3月31日

貝塚中学校区
青少年育成委員会

「明るく楽しく夢集う魅力ある地域環境」

平成14年は多くの問題を抱えて週五日制が実施され一年が経過しました。この間、「学力の低下」青少年による犯罪の増加と凶悪化が社会問題となり、家庭・学校・地域の人々もどう対処すべきか多難を抱いた一年でした。

青少年育成委員会も各部会長を初め委員の協力と、学校・PTA・協力会などと密接な連携のもと、部会活動も予定どおり実施され、貝塚中学校区内では、皆さんに支えられ問題や事犯もなく、順調に事業を遂行することができました。ご支援ありがとうございました。

今後の問題としては、生きる力の不足や、体力の低下などが心配されます。

これからは、ひとりひとりが個性を生かし、明るく楽しく夢を抱



貝塚中学校区
青少年育成委員会会長
関塚 昭男



いた学校生活が送れるような教育、地域環境を推進するため、育成委員会も行政機関、関係団体などと連携をとりながらサポートしてまいりたいと思います。

「いじめのない

花と笑顔と

を目指して



貝塚中学校 校長

須郷 多達男

本校は、「いじめのない 花と笑顔と歌声の響く学校」をスローガンとして、教育活動を進めてきました。

具体的には、数々の福祉体験活動など、体験を通して生徒の心を耕す活動をおこなってきました。

学校に誇りを
地域に愛着を



貝塚中学校 校長

須郷 多達男

また、花のボランティアによる学校内外の「花いっぱい運動」も継続しており、美しい花が絶えず咲いている花壇が作られています。

更に、貝塚祭や地域音楽祭・集会、式典等では生徒の歌声が会場に響き、スローガンが着実に具体化され、子ども達の変容を実感しております。

今後も、地域の皆さまの御支援を頂きながら、子ども達が生き生きと楽しく活動し、貝塚中学校で学んで

よかつた、この地域に住んでよかつたと思うことができるようになると願っています。

雑感



桜木小学校 校長

白鳥 隆幸

早いもので桜木小学校へ着任して、一年になろうとしています。

ご存知のように本校は、二つの青少年育成委員会に属しています。すなわち貝塚中学校区と賀曾利中学校区との二つです。しかし、二つ

終える事ができました。開校当時の守り神の山桜も子ども達の成長をにこやかに毎年毎年見守っていた事と思います。

今年の子ども達の活躍は、5年生の米作り、育成会音楽祭、貝塚祭り、創立30周年式典、ふれあいコンサート。

一年間を通して、地域に密着した活動があり、子ども達も地域の一員としての自覚が芽生えて来ている様子です。更なる地域のご指導で発展することを願っております。

の育成委員会とも変に張り合う事もなく、それぞれの特色を出しながら機能していることに感心しています。

貝塚中学校区では「事故のない、住みよい環境づくりの推進」を目指して取り組み成果を上げていて

います。特に一斉点検パトロールについては、危険場所の指摘はもとより、非行防止に役立つていて、言うまでもない事であります。今後とも子供達の為にお力添えをお願いいたします。



学校に誇りを
地域に愛着を



北貝塚小学校 校長

千葉 史朗

「学校に誇りを、地域に愛着を」を教育目標に置き子ども達が主人公の学校作りに励んでおります。

本年度は、創立30周年式典を地域の皆様の御支援により盛会のうちに

創立三十周年を迎えて

北貝塚小学校教頭 長峯 修二

昭和48年4月5日に開校式が行

われ、児童数371名(学級数10)で北貝

塚小学校が誕生いたしました。

『桜と貝の校章』の由来

30年前、このあたりは広い山林で、春になると、たくさんの山桜がとても



美しく咲いていました。そこで学校を建てるときに、その山桜を残すことになりました。邪魔になる木は移植し、一番大きな木は、根まわりを大きくして、そのまま残しました。それが校庭の三本の山桜です。

そして、学校の南側には大きな貝塚が六つも残っていました。校章が二個の貝と桜でデザインされているのは、そういうことからです。

このように地域に根差した学校も、今年度は校舎改修工事が行われ、新しく生まれ変わりました。そんな折りに、創立30周年の記念式典、祝賀会が行われ、教育長の飯森幸弘様をはじめ多数の地域の皆様や保護者の方々にお祝いをしていただきました。

これを機に、開校当時にかかわってこられた皆様や、30年間の歩みの中で、それぞれの立場で懸しみ育ててこられた諸先輩の方々への感謝を申し上げると共に、これからも「桜貝」の伝統を大切にし、新しい北貝塚小学校の発展に尽力していくたいと思います。

地域ぐるみ 貝塚音楽祭開催

貝塚中学校区青少年育成委員会

副会長

小塚

興作

平成11年度に千葉市教育委員会から「地域ぐるみ教育推進校」

の指定を受け、「地域ぐるみ貝塚音楽祭」がスタートしました。今回から貝塚中学校区青少年育成委員会の主催となり、昨年11月

16日(土)の午前10時から音楽祭は始まりました。これまでの

出演者に加え、貝塚大六天神社

囃子連、特別参加の県立茂原高

校の生徒による古典舞踊が披露

されるなど、まさに地域が一体となつて盛り上がり盛会裡に

ファイナーレを迎えることができました。

今までと変わりなく、貝塚中学校区内の小・中学校の児童・生



今後もこの「地域ぐるみ貝塚音楽祭」が、地域の皆様と学校を結びつけ、児童・生徒の健全な成長を促す一助となれば大変嬉しく思います。

平成十四年度

各部会活動報告

地域と共に

地域ぐるみ 一斉点検パトロール

環境対策部会

本年度の部会活動は、部会委員との協議で「地域ぐるみ一斉点検パトロール」に協力する事になりました。それは従来の環境対策部会での通学路、公園、危険個所などを似通つた実施の内容でもあるためです。7月と12月の地域ぐるみ一斉点検パトロールには、部会委員に連絡を取り参加を呼び掛けました。

部会委員会は、日々各自での地域において充分目を向けるよう話し合い、問題があつた場合は全員で対応するようにしましたが、本年度は、これまで異状がなかつたと思っています。

部会委員の皆様の活動協力に感謝いたします。

書き初め展

健全育成部会

今年度も、桜木公民館と都賀コミュニティセンターで、書き初め展を行いました。桜木小、北貝塚小、貝塚中の児童・生徒が小学校1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆の作品にいどみ、延べ100点を超える作品が出品されました。

この書き初め展は、作品の優劣を競うものではなく、年初めに筆を手にして書くことを目的にしています。

学校外で多くの地域の方々に見ていただき、学年が上がるごとに作品が変わっていく様子を見ていただければと願つております。

来年度も、是非続けたい行事であると思つております。

まし

人情話「いどの茶碗」に笑つた

り、ホロリとしたり、人情の機微に触ることができました。

今年も4月29日に原町の本木様の、御斎田でお田植祭が行われました。9月には登渡神社から神主さんが見えて、イセヒカリという品種が見られました。豊作と感謝の神事が行われました。

氏子の皆さんのが手で、和氣あいあいの中、手早く行事の準備が整えられました。

この様な行事に、子ども達もたくさん参加し、地域の行事として長く続くといいなと思いました。

現在は子ども達とかかわって行われている行事は盆踊りくらいでしようか。

又、2月28日に、PTAと非行対策部との共催で、落語会が開催されました。

例年は、講師をお招きしての講演会を行つていましたが、今年は千葉市出身の落語家の、古今亭菊輔師匠をお招きして落語会を開きました。



芝山・成東へ 研修旅行

レクリエーション部会

2月22日(土)に研修旅行を実施しました。酒々井町の飯沼酒造で酒造りの施設見学をしたり、ビデオによる工程の説明を受けました。続いて、日本で初めてできた航空模型を見学しました。更に芝山科学博物館で、大きなエンジンや模型を見学しました。町のはにわ博物館や観音教寺を訪問しました。はにわの造形美、豊かさを改めて実感しました。

松尾町で昼食後、松尾町にある佐瀬酒造で昔ながらの酒造りの施設を見学しました。また敷地内にあるレストランでのコンサート(ポップス)をちょっぴり聞きました。

更に、成東町で、いちご狩りを行いました。朱く色づいたいちごは甘く、春の香りと味を堪能しました。あいにく、小雨の降る中での旅行でしたが、盛り沢山の内容で、県内にも、楽しみながら学べる施設が、まだまだあることを実感しました。

ある日の横断歩道

交通安全対策部会

冬枯れの或る日。下校時。信号交差点に近づいた女生徒の一団、先頭が横断歩道を渡ろうとしたときに赤ランプ。一瞬立ち止まつて顔見合させていたが、届託のない歓声と歌声が湧きおこつた。やがて、信団は颯爽と横断していました。

「よし、よし」この若者たちの前途に幸あれと見送る。

貝塚中学校区内は、交通量の多い幹線道路と、これに交差する生徒道路などが交錯して、通学路の交通安全は大きな関心事です。

最近は道路の安全施設や要所の規制、歩車分離などその対策や整備も進んでおりますが、一方伝えられる事故の多くは、当事者の不注意という人為的な原因によつて起こされているといわれております。

春、新学期を迎えますが、交通安全対策部会も微力ながら通学の安全に対応してゆきたいと考えております。ご協力をお願いします。

明るく安全な地域をめざして

福祉部会

「明るく安全な地域」を主題に貝塚中学校の生徒の皆さんから、標語を募集しました。

様々な事件が起きている昨今、地域全体で「明るく安全な地域」づくりができればと考えています。

○「大丈夫?」
その一言が助け合い

1年 高野 洋渡

○譲り合い 助け合い
みんなでつくろう明るい地域
3年 明星 亜理沙

○手をつなぎ
みんなの町を守ろうよ
3年 丸山 友美

○確認は

平和な町への第一歩

3年 大野 豊

私は「健常者」である。だから今まで障害者の気持ちになんかなつた事がない。今日、私は障害体験をした。車椅子に座った。とても楽前に進む。楽しい。段差をこえる。なかなかこえられない。なのに私は笑った。世界中には沢山の障害者がいる。私はその人達にとても失礼な事をしたのだ。その人達は今までどんなに苦しい日々を送つてきたのだろうか。私には分から

私は今出来ること、それは「人に優しくする事」それは健常者も障害者も関係なしに。人の立場を考え、助けてあげたい。

「福祉講話」から 優しさ

山本 和加子

ない。しかしきつと「苦しい」「辛い」「死にたい」と思つてゐるだろう。佐久間先生の話にもあつた様にいきなり「お前らの様な奴はいなくなつてしまえばいいんだ!」と、言われてしまふこともある。障害者は障害を持ちたくて持つた訳ではない。なのにこういう様に言はれてしまふのはとてもその人達は傷つくだろう。

私は今出来ること、それは「人に優しくする事」それは健常者も障害者も関係なしに。人の立場を考え、助けてあげたい。

「背中渡り競争」に出場して

桜木小学校

6年2組担任 水野 敏子

桜木小学校では、この夏日本テレビ企画「背中渡り競争」に6年4組全員で出場することが決まった日から毎日練習しました。

朝晨放課後と練習する中、タイムが伸びずけんかしたり、緊張感がなくなってけがをしたりしました。その度に話し合うことで団結力も高まってきた。夏休みには放課時間に合わせて朝早くの練習もしました。最後まで1人として欠けることなく取り組むことが

できました。

当日、ほかのクラスの子どもたちとその他大勢の人が応援する中競技は始まりました。緊張しきている姿に心配したけれど全力を尽くして優勝した子どもたちの顔は輝いていました。

この優勝をきっかけに、やればできるという自信とクラスの团结の大切さを知ることができました。今後もこのような活動の場をつくっていきたいと思います。

見て取れる。

小学生は、大人と一緒になければならない外出できない。留守番もできない等、塾っ子や鍵っ子が多い我が国からすると過保護とも思える青少年保護の施策が講じられている。一方、18歳になると、自立して行動しなければならない等の厳しい考え方が浸透していることもある。

また、婚姻に関する考え方、離婚率50%、再婚率80%にものぼつているカナダでは、離婚は普通のこととして定着しており、両親の離婚が青少年に与える影響は、日本ほど深刻ではないといえる。

むしろ、民族の違いから来る価値観の相違が呼び起こす問題の方が切実である。異なる文化の衝突は善悪の決着だけでは解決できない問題だからである。

今回のカナダ訪問では多くの事を学んだ。国は違つても、問題を抱える子ども達は、同じ様な症状を見せる。しかし、根底にある原因には、日本では考えられない事情があること

てたいと思っているが、「異なった相手に対し、ありのままに受け入れること」が大切であることを

知った。多民族国家のカナダでは、片言の英語を話す外国人にも真摯に耳を傾けるという。自国語をうまく話せない人がいることが普通だからだ。移住した外国人が、カナダが住みやすいと言う理由がここにあると思う。子ども達がそのように思つて行動してくれる社会が作れたら最高である。

編集後記

新しい学習指導要領と学校完全週五日制が始まつた今年度は、学校・家庭・地域をとりまく環境に大きな変化が見られました。

このような流れの中で、貝塚中学校区の育成委員会活動は、様々な分野で着実な成果をあげてきています。

この「育成だより」が、次代を担う子供たちの健全育成に向けた学区小・中学校及び各部会の活動をお知らせする役割を果たせれば幸いです。

